

会 議 録 (概要)

会議の名称	令和5年度 第1回 佐渡市地域包括ケア会議
開催日時	令和5年8月17日(木) 14時00分開会 15時10分閉会
場 所	金井コミュニティセンター 2階 大会議室
議 題	佐渡市における認知症支援の取組みについて
会議の公開・非公開 (非公開とした場合は、その理由)	公開
出席者	<p>参加者 (公務員除く)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 関係団体 11名 (公務員) ・ 新潟県栄養士会 佐渡支部 佐渡支部長(赤泊学校給食センター) 本間信子 ・ 新潟県佐渡地域振興局 健康福祉環境部地域保健課 主任 鈴木麻依 ・ 佐渡市市民生活部 健康医療対策課 課長補佐 渡辺桂子 <p>事務局</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 佐渡市社会福祉部 高齢福祉課 課長 出崎弘美 ・ 佐渡市総合福祉相談支援センター センター長 海老由紀 ・ 佐渡市社会福祉部 高齢福祉課 高齢福祉係 係長 柴原祥二 ・ 佐渡市社会福祉部 高齢福祉課 高齢福祉係 主事 飯山由貴 ・ 佐渡市社会福祉部 高齢福祉課 高齢福祉係 生活支援コーディネーター 渡邊 睦 ・ 佐渡市社会福祉部 高齢福祉課 高齢福祉係 生活支援コーディネーター 津山春香 ・ 各地域包括支援センター 4名
会議資料	<ul style="list-style-type: none"> ・ 資料 No. 1 「令和5年度 第1回 佐渡市地域包括ケア会議について」 ・ 資料 No. 2-1 「両津版認知症の見守りリーフレット」 ・ 資料 No. 2-2 「両津版認知症の見守りリーフレット(事業所用)」 ・ 資料 No. 2-3 「両津の見守りネットワーク」 ・ 資料 No. 3-1 「佐渡市の認知症事業」 ・ 資料 No. 3-2 「R5改訂 認知症ケアパス(一般用)(案)」 ・ 資料 No. 3-3 「R5改訂 認知症ケアパス(本人用)(案)」
傍聴人の数	1人
備考	

会議の概要（発言の要旨）	
発言者	議題・発言・結果等
高齡福祉係 係長	1. 開会
高齡福祉課 課長	2. 挨拶 <p>本会議は、高齢者等の地域の方々や専門職の声を地域包括ケア推進に活かし、実態に合致した地域包括ケアシステムを構築するための重要な会議となる。</p> <p>現在、認知症があってもなくても、自分の希望する場所・地域で最期まで住み続けられることを目指し、各機関が連携し事業を進めている。本日は、包括圏域での認知症支援に特化した取組みや、佐渡市の認知症事業について報告し、それぞれの立場で支援策等、多くの意見をいただくことで今後の取組みに活かしていきたいと考えている。</p>
座長 A 氏 高齡福祉係 主事	3. 議題『佐渡市における認知症支援の取組みについて』 (1) 会議概要説明「第 1 回 佐渡市地域包括ケア会議について」 資料 No. 1 により説明。質疑なし。
佐渡東地域包括支援センター	(2) 圏域の認知症支援 取組み状況報告 資料 No. 2-1、資料 No. 2-2、資料 No. 2-3 により説明。質疑なし。
高齡福祉係 主事	(3) 佐渡市の認知症支援 取組み報告 資料 No. 3-1、資料 No. 3-2、資料 No. 3-3 により説明。質疑なし。
座長 A 氏	(4) 意見交換 <p>認知症患者の把握について。在宅へ服薬指導等に行った際に、患者の「最近、困っているんだ」という声から包括支援センターへ問合せ・情報提供をすることが多くある。同時に「最近物忘れが深刻な様子で、経過的に見ていくと進んでいるような気がする」と、主治医へ情報提供をすることはある。</p>
委員 B 氏	<p>我々開業医は、日常、患者を診ていて変化に気付くことは多々ある。例えば認知症患者の場合、予約を守れなくなる、あるいは義歯を人より多く紛失する。作ったばかりの義歯を紛失し「ネズミが持って行った」等、認知症患者によくみられる典型的な言い訳をする。</p> <p>変化に気付いた際に、すぐに包括に連絡していいものかどうか</p>

<p>佐渡市健康医療対策課 課長補佐</p>	<p>か。ケアパスに明記されていれば対応できるが、そのような意識がないため、スタッフ共々「あの人おかしいよね」と話すが通報・報告に繋がらない。はっきり明記し「どんなことでも報告してください」を共通認識として我々が持てれば、かなり早期に繋がる気がする。</p> <p>以前、特定健診の間診に認知症の項目があると伺ったが、そこで引っ掛かる方はいるのか。また、初期集中支援チームの開催、各包括で件数があるが、どのような方が知らせてくれたのか、どの程度の成果があったのか教えてほしい。</p>
<p>委員B氏</p>	<p>健診の間診項目、認知症は2項目だけ。認知症だと思っている方は「自分は何ともない」を選択したりするので判定は難しい。間診にあたる保健師が「おかしいな」というときは、少し突っ込んだ質問をし、包括支援センターへ繋ぐことはあるが、健診そのもので認知症は判断していない。</p>
<p>座長A氏</p>	<p>「早期発見が一番重要」と、この会議に何回も出席して思っている。この早期発見をどうするか、もっと具体的な対策をして方策を立ち上げていく必要がある。</p>
<p>委員B氏</p>	<p>「ちょっと最近おかしい」と感じ、すぐ包括へ情報提供するのはよいのか、そういうやり方でもいいのか。</p>
<p>座長A氏</p>	<p>方法をきっちりさせた方がいい。</p>
<p>高齡福祉係 主事</p>	<p>事務局の方で、ケアパスに明記なりをお願いしたい。</p>
<p>委員C氏</p>	<p>承知した。対応について検討する。</p>
<p>委員C氏</p>	<p>早期発見が一番大事だと思っている。いいものをたくさん作ってある。しかし最初に実態把握に入るのが一番難しく、あまり早い段階で「認知症の傾向があります」と伝えると、怒って訪問できなくなってしまうことが考えられる。ここを乗り越えられたら上手く活用できると思う。</p> <p>精神科デイケアを佐渡総合病院の近くで行っているとのことだが、認知症患者は利用しているのか。</p>
<p>総合福祉相談支援センター センター長</p>	<p>精神科デイケアは市ではなく佐渡総合病院が実施しているため把握できていない。主に精神疾患のある精神科に通院されている方だと思う。</p>

委員D氏	<p>昨年度、「地域包括ケアシステムとは」「地域包括ケアにおける看護師・保健師の役割」の講義してもらい研修を行った。</p> <p>本年度の重点的な取組み「認知症ケアパス」とはどのようなものか、私は把握しておらず、どの程度周知されているのか。佐渡支部としては、認知度を広げるような取組みに協力していけると思う。</p>
委員E氏	<p>佐渡市から委託されている家族介護教室で認知症の話をする機会がある。数年前から佐渡市の取組みを話しているが、取組み自体を多くの家族が知らない。認知症については初めた頃よりは理解は深まっており、知っている方が増えてきた。</p> <p>今回、新しく認知症ケアパスを作成するが、そのケアパスについても「見たことがない」という方が多い。ツールを作っても、それを発信する機会、どこかで周知する機会を持ち、さらに広めていき積極的に早期発見に取り組んでもらえるとよい。完成したら、各施設等に配り玄関に置いてもらう等、家族の目に少しでも触れる機会があるとよい。</p>
委員F氏	<p>障害年金の方で、高齢の親の認知症が進み「どのような状態ですか」と話することはある。法律的判断をその方にしてもらえるのかが問題で、「成年後見人を立てるしかないのでは」と話をしたことはあるが、嫌がられるため強くは勧められない。</p> <p>母親が今年の春先に施設に入った。今まで1人で暮らしてきたが施設に入ると症状が進むようで、たまに行っても「あんた誰」と言われ、正直、自分の母親がそんなことになり、大変ショックを受けた。佐渡の高齢化率が42%という話があったが、私もあと10年でその仲間に入っても不思議のない年。このような取組みが進んで行けば、少しでも防げるわけではないでしょうが、もっと生きやすい、そういう方たちが生きやすい社会になればいいと思う。</p>
委員G氏	<p>私たちは認知症が進行してから関わることが多い。</p> <p>毎年この時期になると帰省の家族が相談に来る。遠くにいる家族が帰ってみると、電話で喋っているだけでは感じられない現実を目の当たりにする。そういう方たちに早めに情報発信できれば、認知症について違う見方ができるのかと思う。</p>
新潟県栄養士会 佐渡支部長	<p>介護予防教室や健康教室などで、食生活の面で支援できればと思う。</p>
委員H氏	<p>理事会で認知症の話は出ていないが、地区定例会ではあった。</p>

委員 I 氏

民生委員は、見回りという形で高齢者を見守ることが多い。独居・高齢者のみ世帯で認知症患者の情報が入ると訪問して話を聞き、認知症が疑わしい場合は病院や検査の話ができる。しかし若い夫婦等と同居だと「やめてくれ」と言われることが多い。「私たちの立場から病院を勧めることはできない。家族に協力していただかないと先に進めない」という話があった。それについては「包括等にも連絡しながら、行政からも「どうですか」と聞いてもらえるといい。そういう形でやっていこう」となった。

暴力を振るう等様々な症状が出てきて家族ではどうしようもなくなったとき、安心して暮らせるところが佐渡は非常に少ない。先進地の長岡では、認知症と正常の高齢者が一緒に住み、常時、介護士がいる福祉施設がある。その地域の方しか入居できず、このような施設があると非常によい。

私たちの立場としては、家族の理解がまず一番。認知症ケアパスは見たことがなかったが、それを持って行って「こういう形で取組んでいる」と家族に説明等ができるツールになると非常によい。

地域での見守り活動を含む包括の受託をしており、相談を受け付ける立場で活動している。「認知症が疑わしい方を発見したらどうするか」については、情報共有が大事。迷わず包括に誘導してくれるとよい。様々な形で関わる方法を検討していく材料になる。通報したからそれで終わりではなく、周りの関わりも含め我々に協力してほしい。

義母が認知症で昨年亡くなった。一気に悪くなるわけではなく徐々に悪化していった。アルツハイマー型というよりもレビー小体型の気がするのだが、幻視や幻聴があり病院で大声を出したり歩き出したり。早いうちにアルツハイマー予防薬が処方されていたが、自分で「これはボケの薬だから私は飲まない」と服薬が難しかった。一番大変だったのは、車の運転をやめさせること。1ヶ月位本人を説得し、警察と一緒に行って手続きをした。物損事故が立て続けにあり、人身事故を起こしたら大変なので、何があっても強制的に終了という形でやった。

家族がすぐに何かできるものではない。施設入所を考えても本人が承諾しない。かなり状態が悪くなってから入院・入所に繋がっていく。そういう思いをしている家族は非常に多く、認知症だと分かっているにもかかわらず次に進んで行けない状況がある。

高齢者夫婦のみ世帯で、夫が認知症になり暴力を振るうケースが多数ある。そのとき、どのように対応していけばいいか。SOSを出しているのは分かっているが、なかなか訪問もでき

<p>委員 J 氏</p>	<p>ず家にも入れてくれない。包括は様々な方策を考えながら、何とか繋がりを作っている。社協も様々な制度の中で、例えば、日常生活自立支援事業で繋がり、成年後見に繋いでいくことをしている。情報共有を大事にし、具体的にどのようにしていくか、これからの課題として考えていく必要がある。</p> <p>資料No.3-1「アルツハイマー月間」、今後の取組みの「北沢浮遊選鉱場跡ライトアップ」が「市民に認知症についての正しい理解と協力を促す」とある。どのようにやるのか。</p>
<p>高齢福祉係 主事</p>	<p>9月21日が世界アルツハイマーデー。その日に合わせ全国でオレンジ色にライトアップし、認知症の人とその家族について理解を促す取り組みがある。宣伝方法は市報に掲載、認知症の人と家族の会にも知らせている。</p>
<p>委員 J 氏</p>	<p>佐渡市でマイクロバスを出し、見せることはしないのか。</p>
<p>高齢福祉係 主事</p>	<p>移動手段については特に手配はしていない。</p>
<p>委員 J 氏</p>	<p>高千・外海府地区の在宅支援を目途に、実態把握調査をしている。その中から認知症の方が数名出てくることがある。介護予防教室もしており、今まで参加していた女性が来なくなったときには「じいちゃんの具合が悪くなった」と参加者が教えてくれ情報の共有ができており、それを包括へ連絡している。</p> <p>車の免許返納は、私たちが一番危惧しているところで、高千地区でも昨年2件ほど死亡事故があった。やはり高齢者の運転だったので、この普及啓発に「免許返納事業」も入れてほしい。</p>
<p>新潟県佐渡地域振興局</p>	<p>今月3日、佐渡地域医療連絡協議会で「新潟県地域保健医療計画佐渡圏域重点取組の方針の進行管理について」の協議を行い、認知症対策は重点取組の一つとなっている。協議の中でも、認知症の方も含めた共生社会を佐渡全域でどのように作り上げていくとよいのかとの話し合いもあり、共生社会が一つのキーワードになっている。認知症になっても佐渡市で安心して暮らしていくために、住民の皆さんにどのような姿になってほしいとイメージするのか、とても難しいところではあるが、本日出席いただいている皆さんからもお知恵をいただき、どのような取組を進めていけると望ましいのか、一緒に検討いただけるとありがたいと思っている。</p>

<p>委員 K 氏</p>	<p>私もケアパスを知らなかった。「認知症チェックリスト」に関して、金融機関窓口でお客様と相対している事業所向けに、もう少し項目が少なくてもよいので専用のものが欲しい。「こういうがあるので家族でも見てみて」といえるような、家の人にチェックしてもらうのも欲しい。</p> <p>認知症の傾向がみられ始めた方の家族に話をすると、認めないことが結構ある。包括へ連絡し、一緒になって確認する機会を設け、今後どうするのか考えることができるような流れ・仕組みを作ってもらえると非常にありがたい。私たちはカバーできると思うので、是非やってほしい。</p> <p>認知症サポーターを皆が取っているが、その後、何もやっていない。フォロー研修で「このような方が来たら、これチェックしてくれ」「このような連絡をしてくれ」「このように動いてくれ」というのがあると非常にやりやすい。我々も協力しやすいと思うので、お願いしたい。</p> <p>我々も医療的に「どのくらいの薬がある」「このくらい治る」「このくらい進まない」等の情報が何もないので、情報提供をもらえると非常にありがたい。</p>
<p>健康医療対策課 課長補佐</p>	<p>市では、高齢者保健事業と介護予防の一体的実施に取り組んでいる。簡単に言うと、健診でチェックし、ハイリスクな人には保健師・栄養士が直接関わり、フレイル予防について話をする。地域全体には、地区学習会に管理栄養士・看護師が出向き健康教育を行っている。</p> <p>佐渡市は高血圧の人、メタボリックシンドロームの数値が新潟県の中で特に高く、それが進んでいけば認知症になる確率も高くなるため、予防活動を地道に続けていきたい。</p> <p>保健師として地域に出て、皆で集まる場を仕掛けている。コロナが少し落ち着き、健康推進員の協力を得て呼びかけてはいるが、「認知症になりかかっているかな」という方たちは出てこない。気になり包括へ繋ぎ、介護保険・介護予防教室等を勧めてもらうことも多いがサービスに繋がらない。その人たちをどう見守っていくのか考えないといけない。繋がりが強い地域は、認知症であっても様々な地域の中に出ている。集まりのない地域もあり、地域差を少しずつなくそうと努力している。</p> <p>地域共生社会、障がい者や高齢者等の様々な人が地域でどう暮らしていくのか、どう支え合っていくのか、繋がり続けていくのか、これからどんどん考えていかないといけない。</p>
<p>座長 A 氏</p>	<p>多く上がった意見、ケアパスを知らない人が多い。ケアパスをどのように市民・関係者に周知していくかが課題。</p>

	<p>関わる場所が自宅・事業所等、それぞれ違う。例えば「医療機関だったら、このような関わり方を」等の情報ツールがあるとよい。「窓口対応のチェックリスト等を作成してほしい」という意見もあった。</p> <p>「ちょっとおかしいね」をどうしたらいいか分からず、自分のところだけで終わらしてしまう。その方向性を佐渡市には示してほしい。</p> <p>少子高齢化が進み、様々な地域課題が生まれ、行政だけでは解決できない課題も出てきている。今日の報告、様々な立場、違う角度での意見が新たなネットワークを生み、よりよい活動に繋がっていくことができると思う。この会議の場だけでなく持ち帰って、職場の方たちにも伝えてほしい。</p> <p>今回上がった意見は、事務局で取りまとめ、佐渡市全体で取り組みを進めてほしい。また、次回のケア会議等で報告し、必要であれば協議をしてほしい。今後の展開を期待している。</p>
高年齢福祉係 係長	<p>4. その他</p> <p>本年度の地域包括ケア会議は年3回開催。次回の会議日程は11月を予定している。正式な日程が決定したらご案内させていただきます。</p>
高年齢福祉係 係長	<p>5. 閉会</p>

